

**生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター芳川  
担当圏域レベル）開催報告書**

<b>1 開催日時</b>	令和 7年12月25日（木） 10時00分 ～ 11時30分
<b>2 開催場所</b>	南陽協働センター ホール
<b>3 参加者</b>	21名 委員11名（芳川4名、五島3名、河輪4名）、関係機関6名、市社協4名
<b>4 協議の内容</b>	<p>1. 開会 2. 挨拶 芳川圏域生活支援体制づくり協議体 会長 3. 協議内容 ①前回の振り返り ②情報提供 ・芳川圏域内集いの場紹介 (1)本郷東にこにこサロン (2)五島地区社協カフェ (3)三新町サロン ③意見交換</p> <p><b>【Aグループ】</b>  <b>■各地区に合った居場所の方向性</b>          ・農業が盛んな地域は農作業が忙しくて参加が難しい。          ⇒参加してもらうには…農業の手伝いに行く仕組みを作り逆に集まってもらうのはどうか          ・自分はまだ若いと思っている人が多い。          ・歩いて行くことのできる距離がちょうどいい。⇒地域の公会堂を中心に考える。          ・河輪地区…昔ながらの団結力が残っており地域の行事に参加しやすい。          ・芳川地区の西側の方は新しい人が多くまとまりが無い印象。          →ここからどう進めていくかがスタート。          ・地域の人に働きかけていくマインドは助け合い。</p> <p><b>【Bグループ】</b>  <b>■各地区に合った居場所の方向性</b>          ・どんな居場所なら参加したいと思うか。          ⇒歌が好きな参加者が多い。          折り紙を苦手な人がいるがやってみたら意外と良かった。          頭の体操、レクリハなどは人気。          マンネリ化しないように少しずつマイナーチェンジしている。          ・人数が少なくても良い。参加者が多ければ良いというものでもない。          ・情報交換や生きがいにつながる場であることも大切。</p> <p><b>■サロン実施にあたり考えること</b>          ・乗り合いで会場に行くのはリスクがある。          ・会場までの距離の課題がある。行きたくてもいけない人はどうする？          ・PR について、口コミの力も大きい。「あの人が言うなら」「誘われたし行ってみるか」から始まる参加でもよい。</p>

**【Cグループ】**

■各地区に合った居場所の方向性

- ・遠州浜は各団体が独自に活動している。運動系・レク系
- ・子ども会も各地区にあったが消滅していった今では1つの子ども会として活動している。
- ・外国籍の方も自治会役員に入ってもらっている。⇒ここから外国のコミュニティに情報を発信してもらっている。

■サロン実施にあたり考えること

- ・サロンの参加者は増えている。  
⇒複数のメニューを用意して興味のある回に参加してもらっている。  
企画はスタッフが作るが広報（チラシ配布）は自治会が全面協力。
- ・話だけだと世間話になりがち、そうならないように工夫が必要。
- ・五島地区で地域カフェが2回開催した。初回より2回目の方が参加者が増えた。とにかく継続すること、一度やめると復活は難しい。

**5 今後の見通し・  
必要な対応**

- ・引き続き地域の集いの場の情報提供を行いながら、地域の居場所について協議を進めていく中で、居場所が必要だと思われる地域と創出に必要だと思われることについて話し合いを進めていく。また、意見交換の中で出てくる地域の実情の中から新たな課題を見つけていきたい。